



**■ビオトープ・サロン 生物多様性…身近な場所にも未知の生きものがまだまだいそうです！**

去る1月22日にテレビで、翌23日には新聞で大きく取り上げられた「アナムシオイガイ」について、和名の名付け親である松田春菜さんに、新種として認められるまでの苦労話についてご寄稿いただきました。（編集部）

**【徳島県で新種の陸産巻貝を発見】**



提供：松田春菜

寄稿：松田春菜（農学博士）  
 （徳島県立佐那河内いきものふれあいの里  
 ネイチャーセンター専門研究員）

落ち葉の下にじっと隠れている小さな貝を見たことはあるでしょうか？

この度、そんな陸にすむ巻貝の新種を徳島県で発見しました。世界中で徳島県阿南市でしか生息していない珍しい巻貝で、その名も「アナムシオイガイ」といいます。特筆すべきはそのサイズ、成体でわずか3ミリほど。新種を実際に見た方々は、「思っていたよりずっと小さい！」とまずその小ささに驚かれます。徳島県で新種の陸産巻貝が発見されたのはなんと約30年ぶりになります。

この新種、実は今から40年も前に発見されていました。しかし当時は、既に見つかっている種と同じであるとして、

新種とは判断されませんでした。その後、2005年に阿南市在住の河野光さんがこの巻貝を見つけ、それがアマチュア研究者の矢野重文さんに届けられたことによって、もしかすると新種では？との疑いがかけられました。

そこから私を含む研究グループが立ち上がり、詳しい検討に取り掛かることになりました。まず、これまでに報告されている種の文献を調べるわけですが、当てはまるのかどうかは全くわからない…という状況（殻の形がよく似た種がいくつかあります）。そこで、よく似た種を「模式産地」と呼ばれるその種の発見のもとになった産地で入手し、比較することにしました。

ムシオイガイの仲間は、多くは生息密度が低く希少で、サイズも小さく、採集が一苦労です。地面に這いつくばって落ち葉をめくりながら探すこと数時間×数日、ようやく必要な標本を得ることが出来ました。それほど小さな巻貝ですので、観察は電子顕微鏡を使って徹底的に行い、普段なら見落としてしまうような細やかな特徴を把握していきしました。さらに、3ミリ程の殻のあらゆる部位をひたすら測定し、その比率から形の違いを明らかにしていきしました。

こうした様々な検討を行い、DNA解析の結果からも裏付けられる形で、見つかった巻貝がこれまで報告されている種と区別できることがわかりました。成果を論文として発表し、最初の発見から約40年後、ようやく新種として認められたわけです。

実は、徳島県は陸産巻貝の宝庫として知られ、アナムシオイガイ以外にも希少な種がたくさんいます。今後、さらに新種が見つかる可能性もあります。今回の新種発見がきっかけとなって、より多くの人に陸産巻貝に興味をもってもらえればと思っています。

標本は佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンターに展示していますので、ぜひ見に来てください。

**■ビオトープ・サロン NPO 法人徳島共生塾一歩会の若者部会“一歩会ユース”が始動！**

県下にとどまらず、環境保全活動の先駆的団体「NPO 法人徳島共生塾一歩会」の後継的組織「一歩会ユース」の活動が始まるとのことで、ご寄稿をいただきました。構想実現のためにも仲間が増えるといいですね。（編集部）

**【ビオトープの「一歩村」構想】**

寄稿：黒田明久（一歩会ユース世話役代表）

徳島共生塾一歩会の若者部会ともいうべき「一歩会ユース」が発足しました。

メンバーの一人ひとり、環境問題に、中でも自然との共生ということに強い関心のある者ばかりです。定例会でメンバーの一人から、みんなの楽しい共同作業で、地域の傷んだ自然環境を修復し再生する活動（“ダッシュ村”みたいな）をどこかの場所で取り組んでどうかと提案がありました。

このような活動を通じて、自分たちも自然の良さについて、身体で感じ満喫したいということです。名称も、“ダッシュ村”ならぬ「一歩村」がいいなあということになりました。

候補地としては、牟岐、板野、鳴門、徳島市周辺、眉山、佐那河内等あちこちが上がりましたが、適当な場所はまだまだ未定の段階です。

もし、里山に候補地が見つければ（里山編）、畑も耕して無農薬野菜づくりに取り組める、炭焼き釜もかまえて炭作りができる、古民家があれば修復して囲炉裏を設けてみんなで自然との共生について楽しく語り合えます。

もし、海岸に候補地が見つければ（海域編）、昔はとれていたであろう「アサリや魚」をその辺りの海に呼び戻すための活動にチャレンジしよう、そのためには清掃活動等も必要になってくると私たちの構想は広がるばかりです。

まず、ビオトープのABCの知識習得から始めようと考えております。まだ、構想段階で、具体的な候補地は見つかってはいませんが、ビオトープ管理士会の皆様のアドバイスを頂けると幸いです。

■ビオトープ・サロン NACS-J自然観察指導員講習会 第471回 徳島

徳島県でも「生物多様性地域戦略」の策定が推進される中、新たな公共の取組による人材育成プログラムの一環として、自然観察指導員講習会が徳島県で開催されました。今後の活躍に期待したいと思います。(編集局)

【トコロジストの活躍が楽しみ!】

記者：稲飯幸代(会員)

2月10日、11日に小松島市小神子山で自然観察指導員講習会が開催されました。受講者は、県内はもとより、遠くは東京からの参加を含む総勢36名となりました。

自然観察指導員7年生の私は、指導員としての経験が希薄にも関わらず、にわか講師として、ミニ観察会を評価するという恐ろしい事を経験しました。しかし、新しい指導員の誕生の機会に立ち会い、一生懸命な姿に感動しました。そして改めて、まずは自分の足下から地域の自然を「知る」「考える」「守る」という事の大切さを再認識しました。

この機会を活かして徳島県で多くの「トコロジスト」が活躍されることが楽しみです。やればできるという勇気をもたらえた貴重な体験の2日間となりました。



まずは座学で基礎知識習得



マクロの自然を五感で観る



ミクロの自然を五感で観る



懇親会でつながる人と人

※「トコロジスト」とは、講習会で用いられている造語で「地域のスペシャリスト」の意とのこと。「地域の専門家?」きっと、「地域の自然や文化をよく理解し伝えられる人」かな? (編集局)

■ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記! ~プログ-ビオトープ気延の里~

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

【新年の出来事】

1月16日 晴れ 今年最初のビオトープクラブの活動日。今日も22名のクラブ員がやってきました。

約1時間の活動後、ひょっと広場の片隅を見ると。昔も今も子供のすることは変わらないんですね。私たちもよく作りました、自分達の‘城’。

25日。待ちに待ったウズラの雛の誕生です。フラン器に入れて17日目。毎日楽しみにしていましたが、ついに‘ピヨッ’。やったー! 10個の卵から3匹孵りました。

(編集局から一言：新年の出来事…少々、時期外れのご紹介となりすみません。ビオトープクラブ、元気がもらえそう!)



■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより

**無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。

(編集局)

【環境関連法の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問051：生物多様性の保全等の観点から重要な森林を守る制度として、保護制度があるが、以下の1～5のなかに、保護林でないものが1つある。それを選びなさい。

1. 森林生態系保護地域
2. 森林生物遺伝資源保存林
3. 林木遺伝資源保存林
4. 保安林
5. 特定動物生息地保護林

■前号050の正答「3」

ビオトープ創出のポイントは、①ビオトープ創出の目的は、単に緑を増やすことにあるのではなく、生物多様性を保全することにある。完成直後の見た目のためだけなら、高木植栽は避けた方がよい。②ビオトープを創出する際には、その地域の現在置かれている立地条件を考慮する必要がある。例えば、かつてその場所が湿地だったからといっても、湿地を復元するのが既に難しい場合には、必ずしもそれにこだわる必要はない。③ビオトープを創出する際には、誘致目標となる生物種を選定するののも一つの方法で、その生態や生活史に適合した設計を行う必要がある。そして、施工の際には、設計図を基に工事を行う。しかし、現場でのアイデアや完成後の観察や調査によって継続的に改善することが重要である。④ビオトープ創出の場合、造成工事は第一段階に過ぎず、むしろその後の自然な状態の中での変化によって、多くの生物に多様な生息・生育空間を提供すると言う考えが重要である。⑤ビオトープの創出は、造成工事が完了した段階で完成型ができるわけではない。5年後、10年後を見据えるなど、長い目でその管理に関わっていくことが重要である。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局

[E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>]